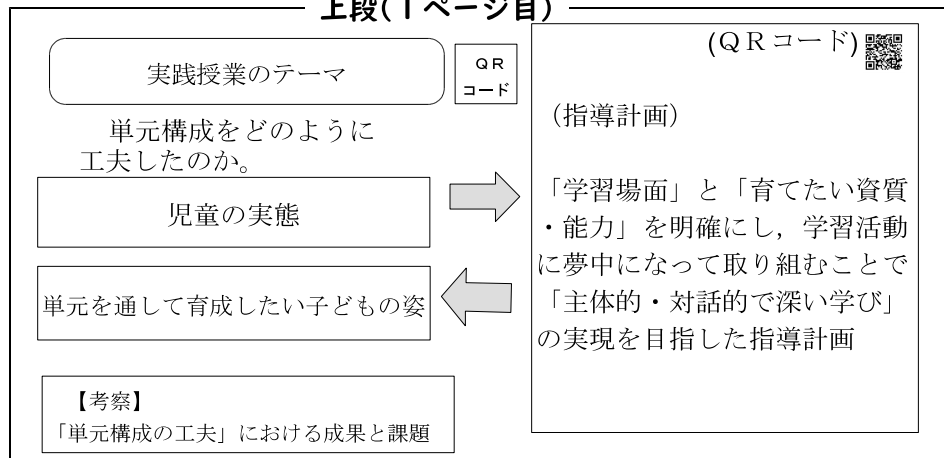


II 本資料の見方

今年度、指導委員会が掲げた2つの授業改善の視点ごとに、どのように実践を行ったのか、また、それを通じて明らかになった成果や課題を整理しました。1つの実践を見開き2ページで構成し、1ページ目には「単元構成の工夫」、2ページ目には「教師のコーディネート」についてまとめてあります。

上段(1ページ目)

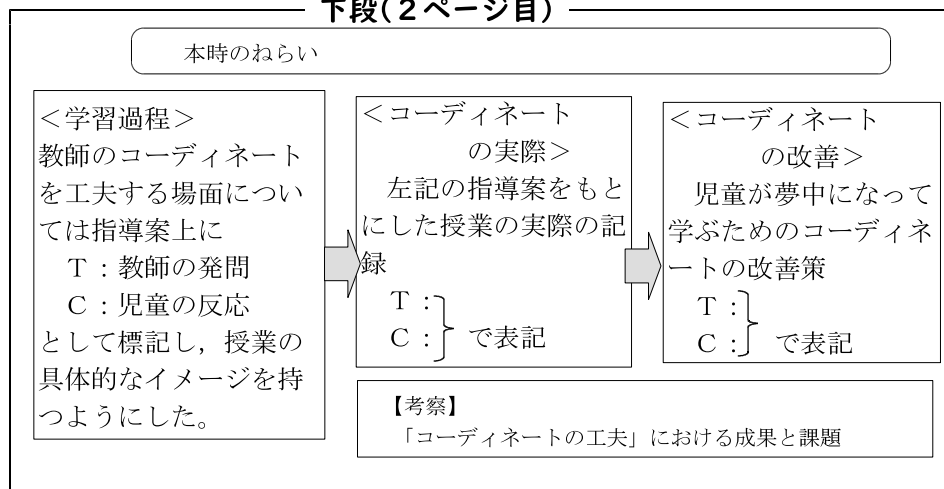


1ページ目は「単元構成の工夫」です。教科の特質、単元の系統性、教材解釈を大切に、単元全体と単位時間の関係性や位置づけを指導者がきちんと押さえるための指導計画を工夫しました。

単位時間ごとに育成する資質・能力を明記するとともに、単元全体の中で、「見通す」「振り返る」「対話する」「考える」「教わる」等各場面の位置づけを明確にして、指導計画を吟味しました。「児童の実態」と「単元をとおして育成したい子どもの姿」を比較しながら、どのような学びの道筋をたどれば、児童が夢中になって主体的に学び、ねらいとする資質・能力を身に付けることができるのかを検討して作成した単元指導計画です。その計画にそって指導した結果、夢中になって学ぶ子どもの姿が見られたのか、ねらいとした資質・能力が身に付いたのかについて考察をしています。

なお、右上のQRコードからは、Web上に掲載した授業実践の記録や授業に関する参考資料をご覧いただくことができます。

下段(2ページ目)



2ページ目は教師の「コーディネートの工夫」です。昨年度の学校訪問の反省の1つに「教師の適切な問い返しや追質問、他の児童生徒につないだりすることで子どもたちの考えが深まっていく全体での学び合いについて改善していく必要がある。」ことが示されました。

それを受けて、指導委員会では、子どもの問いをつないだ学習課題を作り、子どもの思考を促す発問をもとに、思考の見える学習過程を工夫することにしました。工夫した学習過程をもとに授業を実践し、実際に子どもたちの学びをコーディネートすることが出来たのかを検証しました。その結果をもとに、教師のコーディネートの改善策を提案しています。

(委員長 服部 英昭)